

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年11月7日

JAMA:2020～2021年に新型コロナ有症状感染した人々のロングコロナ症状
(倦怠感、認知機能低下、呼吸器症状) 保有率

【松崎雑感】

多くのデータベースを分析すると、新型コロナ感染から1年経っても、体調不良（倦怠感、疼痛、気分障害、認知機能低下、呼吸困難）の続く人々は6%前後。20歳未満では2.8%と言う集計結果です。基礎疾患や喫煙などライフスタイル上の問題を持つ人々はさらに多くなると予想されます。性別など修正不可能な因子もありつつ、日頃の体調管理などが、この様なウイルス感染症にかかった場合の「後遺症」の有無に大きく関係すると考えた方がよさそうです。

2020～2021年に新型コロナ有症状感染した人々のロングコロナ症状（倦怠感、認知機能低下、呼吸器症状）保有率

Global Burden of Disease Long COVID Collaborators, Wulf Hanson S, Abbafati C, et al. **Estimated Global Proportions of Individuals With Persistent Fatigue, Cognitive, and Respiratory Symptom Clusters Following Symptomatic COVID-19 in 2020 and 2021** [published online ahead of print, 2022 Oct 10]. **JAMA**. 2022;10.1001/jama.2022.18931. doi:10.1001/jama.2022.18931

背景：コロナ後遺症（ロングコロナ）の存在が問題となっている。

目的：性別、年代別にロングコロナ症状を呈する人々の比率を調査する。

方法：22か国、54論文、2医療データベースの120万人の新型コロナ有症状感染者を解析対象とした。

3個のロングコロナ症状群（①倦怠感、疼痛、気分障害；②認知機能低下；③呼吸困難）のうち1つ以上を持つ者の比率（年代別、性別、入院の有無別）を調査した。

結果

120万人（4～66才）。男性比率26～88%。新型コロナ有症状感染から1年経っても1個以上のロングコロナ症状群を持つ者は6.2%（95%信頼区間2.4～13.3%）。①症状群（倦怠感など）3.2%、②症状群（認知機能低下）2.2%、③症状群（呼吸困難）3.7%。ロングコロナを呈する人々における症状群の割合；①51.0%、②35.4%、③60.4%。感染から3か月の時点で20才以上の年代では、女性の方が男性よりもロングコロナが多かった（10.6%対5.4%）。

20歳未満の男女のロングコロナ率は2.8%。ロングコロナ症状の持続率は、入院歴のある場合9.0か月（1.0～12.0）、入院のない場合4.0か月（3.6～4.6）。感染から3か月の時点でロングコロナ症状のある人々の15.1%（10.4～21.1）は12か月後にもロングコロナ症状が続いていた。

結論

新型コロナ有症状感染から3か月の時点で、ひとつ以上のロングコロナ症状群を呈する人々の比率をモデル化して示した。